

第7回（仮称）王寺町まちづくり基本条例審議会

日時：令和2年2月14日午後7時～

場所：やわらぎ会館3階 小会議室2

1. 開催要件の確認について

委員15名中15名が出席しており、審議会が成立することが事務局から報告された。

【会長】

皆さんこんばんは。寒くなったり暖かくなったり変な天気が続いていますが、私たちの議論も前回から具体的な内容に入ってきて、全体像がなんとなく見え始めたところだろうと思います。

今日のご案内の通り、「目的」、「理念」、「原則」、そして一番いろいろな意見が出そうな「前文」について、議論をしていかなければなりません。

今日のところではアイデア出しにとどまると思いますが、今後の条例の本文を作っていくとき、また、それをどう解釈していくかというときの重要な手がかりになります。そういう意味でもいろいろな観点からのご意見をいただければと思っています。

今日もよろしくお願いいたします。

2. 第6回（1月）審議会の振り返り

事務局から、資料1・2をもとに第6回（1月）審議会の振り返りについて以下の説明があった。

【「条例の位置づけ」について】

- ・ 条例の末尾に書いている自治体もあるが、冒頭がよいという意見があり、3番目ぐらいに置いて条文を構成してみることで同意した。
- ・ 使う言葉として、「みんなで大事にしていく」という趣旨を、難しい言葉を使わずに表現したいため、「最高規範」よりも「最大限尊重する」という言葉の方が好ましいということが大きな合意のポイントだった。

【「広域での連携と協力」について】

- ・ 個別の連携先を具体的に書きすぎないようにするというものが大きな合意のポイントとしてあった。
- ・ 決められなかったところでは、自治体間での連携の記述はあるが、住民間での連携についても書く余地があるという意見が出ていた。

【「条例の見直し」について】

- ・ 一定の年数を置いて見直しを行うことを条例の中に盛り込むと合意ができた。

- ・ 見直しを行う際には住民が参画する体制と合意したが、その組織が常設なのか、条例の見直しの時期にだけ設置されるのかについては合意ができていない。
- ・ 条例の見直しの具体的な年数については、4年と5年という意見が出ていたが、まだ決まっていない。
- ・ 条例の見直しだけでなく、条例にもとづいた活動の評価も必要ではないかという意見が出ていたが、合意はできない。

【「参画と協働」について】

- ・ 町政への参画の中身については、いろいろな場面に対応できるようなシンプルな記述にすると合意した。
- ・ まちづくり協議会など、地域の様々な課題を住民が参加して解決していく場を設定することや、参画と協働のあり方を記載することについて合意した。
- ・ 住民投票とパブリックコメントについては、まちづくり基本条例の中に細かく書き込むのではなく、項目としては設けるが、「別途定める」という表記にとどめることについて合意した。
- ・ 「参加」と「参画」のどちらの言葉を使うのかについてはまだ意見が分かれている。

4. 章ごとの内容検討について

今回（第7回）の審議会における章ごとの内容検討について、事務局から、進め方について以下の説明があった。

- ・ 今回の審議会での検討項目は4つあり、それぞれについて2班に分かれて議論する。
- ・ ただし、「目的」については単独で議論は行わず、「まちづくりの理念」や「まちづくりの原則」を検討する中で出てきた言葉をもとに事務局で条文に反映させ、4月の審議会にて、条文の形で検討する。
- ・ 「前文」の検討は以下の通り進める。
 - ①前文に盛り込みたいキーワードをふせんに書き出す。
 - ②一斉に模造紙に貼り、似たものはまとめる。
 - ③②をもとに、班ごとに意見交換をする。
 - ④「必ず盛り込みたいキーワード（5つまで）」、「可能なら盛り込みたいキーワード（5つまで）」の2つに分類する。

事務局から、資料4をもとに、章ごとの内容検討のポイントについて以下の説明があった後、グループごとに内容を検討し、全体で発表を行った。

【「まちづくりの理念」について】

- ・ めざす王寺町がめざす理想の姿を書く。
- ・ 審議会のワークショップや町民ワークショップで「王寺町のいいところ」、「こんな王寺町になってほしい」として挙げたものに手がかりがある。

- どのような理念を描くかを議論する。
- 「まちづくりの理念」を「前文」に盛り込んでいる事例もある。

【「まちづくりの原則」について】

- 目的や理念を実現していくための具体的な進め方、行動原則を定める。
- 行政だけ、あるいは住民だけを対象とする行動原則ではなく、まちづくりに関わる人すべてを対象とするものとなる。
- 「多様性の尊重」という言葉が「まちづくりの理念」で使われていたり、「まちづくりの原則」で使われていたり、どちらにも入っていたりするため、どちらに入れたらよいか分からない場合は、両方に意見を出しておく。

【「前文」について】

- 条例に前文があるのがまちづくり基本条例の特徴。他に前文が置かれているものでいうと憲法がある。
- この条例に込める思いを書き込む。
- 玉寺町らしさを歴史・文化、自然環境や人間性の視点で書くことができる。
- めざすまちの姿を書いたり、まちづくり基本条例が必要とされる背景が書き込まれたりすることもある。
- 文字数は500字～600字の分量がスタンダードとなっている。

【会長】

「目的」は何のためにこの条例があるのかということを書き記すところです。条例の中身が固まってから考えてもよいのではないかということで、説明いただいた進め方となりました。

今日考えていただきたい項目は、「まちづくりの理念」、「まちづくりの原則」、「前文」です。こういうキーワードを入れたい、こういう表現をしたいといったところを議論いただきたいと思います。

【各グループの項目ごとの内容検討発表】

● まちづくりの理念

〈1班〉

目的、理念、原則は分けきれないということもありますが、この条例を作るうえで考えておかないといけない意見として、町民への負担が増えすぎないような形にしたいというものがありませんでした。

具体的に見ていくと、**吉野町の条文**がニュアンス的に合っているのではないかという意見が出ました。基本的人権や平和主義、多様性の尊重というところに焦点を当てたいという意見でした。

他には、環境問題にもつながりますが、サステナブル、持続可能性という言葉が出ました。環境問題だけではなく、自治体としての持続可能性もポイントとしてあるのではないかということです。

そして、実現性、リアリティです。言葉だけではなく、具体的に実現できることを理念として書くことも大事なのではないかという意見がありました。

それから、コミュニティや支え合いというところも大事だという意見もありました。

特に議論が盛り上がったのが、だれがやるのかというところです。ポイントとしては、いろいろな主体の連携が大事だけれども、連携を進めるためにはリーダーが必要なのではないか、そしてそのリーダーはある程度給料をもらったうえで、行政の枠組みを離れた形で自由に連携を主導する仕組みが大事なのではないかということで、この条例の中でそういった仕組みづくりができればよいのではないかという話でした。

王寺は川に囲まれたまちですので、安心・安全というところで、災害に強いまちというのも理念の中に入れてたいという話も出ました。

参考〈吉野町まちづくり基本条例〉

(基本理念)

第3条 町民及び町は、次に掲げる基本理念により自治の確立を目指したまちづくりを進めます。

- (1) 町民一人ひとりの基本的人権が守られ、多様性を認め合いながら、子どもから高齢者まで、性別、障がいのあるなしその他の属性にかかわらず、安全かつ安心して暮らすことができるまちをつくりまします。
- (2) 町民、議会、行政がそれぞれの役割を担いながら連携し、協働して、公正で開かれた町民主体の町政を行います。
- (3) 先人が築き、継承してきた歴史、文化及び自然環境を次世代に引き継ぎ、世界遺産等を活かしたまちをつくりまします。
- (4) 町内外の交流を図り、人と人とのつながりを大切にし、自発的に助け合うまちをつくりまします。

〈2班〉

「やわらぎの精神」と、「多様性を大切にする」という意見が出たのですが、一見矛盾しているのではないかという話で議論しました。突き詰めていくと、「やわらぎの精神を持って、多様性を尊重する」というものがしっくりきました。

多様性を大事にして、作られたコミュニティに参画するのではなく、共感できるコミュニティを生み出していくことでまちづくりを進めるというのが理念としてよいのではないかという結論に至りました。

● まちづくりの原則

〈1班〉

実際には情報共有や参画と協働など、今までに言われてきたことも入れたいのですが、楽しくまちづくりをできる仕組みが大事ではないかという意見が出ました。

それから内輪だけで進めない、オープンな形で進めるということも大事だという意見もありました。

「まちづくりの理念」でも出ましたが、行政の中に入ってしまうとやりづらい面もあるのではないかと、行政の中ではいろいろとしがらみがあるのでそれから離れて行くことを応援するものも大事なのではないかということも話し合われました。

「まちづくりの理念」のところでも吉野町の条文が参考になるという話がありましたが、「まちづくりの原則」では、**生駒市の条文の4・5・6条、吉野町の条文の4条5・6号**が参考になるのではないかとということも話し合いました。

それから、連携、情報共有が大事で、情報共有をいかに進めていくのかがまちづくりのための連携の前提になるという話もしました。

参考〈生駒市自治基本条例〉

(情報共有及び公開)

第4条 市民及び市は、まちづくりに関する情報を共有するものとする。

2 市は、市民に対し、市が保有する情報を積極的に公開するとともに、分かりやすく、速やかに提供しなければならない。

(参画と協働の原則)

第5条 市民及び市は、第1条の目的を達成するため、参画と協働によるまちづくりを推進する。

(人権の尊重)

第6条 本市のまちづくりは、性別や年齢、国籍などにかかわらず、市民一人ひとりの人権が保障され、その個性及び能力が十分発揮されることを原則に推進されなければならない。

参考〈吉野町まちづくり基本条例〉

(基本原則)

第4条 町民及び町は、次に掲げる事項を基本原則として、自治の確立を目指したまちづくりを進めます。

(1)～(4) (略)

(5) 環境との共生の原則 町民と町は、まちの歴史や自然を大切にし、環境との共生を図ります。

(6) 多様性尊重の原則 町民の多様な属性や文化を尊重したまちづくりを進めます。

〈2班〉

「まちづくりの理念」を具体化するとき基本的なことが出てくるころだと思うのですが、そこで大事なのは、人の意見には耳を傾け、人の想いに寄り添い、自分の意見はしっかり言い、そして自分の言ったことに対してしっかりと行動をもって責任を果たすということです。逆に、頑張っている人を応援していかななくてはいけないですし、巻き込み巻き込まれていくということが大切だという話をしました。

● 前文

〈1 班〉

「必ず入れたいキーワード」

- ① 一体感のある町
- ② 歴史と文化を大切にする
- ③ 豊かな自然が残るまち
- ④ やわらぎの精神
- ⑤ 多様性が尊重される

2万4千人ぐらいの規模で、まちとして一つにまとまるにはよい規模ではないかということで、まちをいくつかに分断するのではなく、一体感のあるまちとしてまちづくりを進めていくというのを入れたいと思いました。

また、多様性と言いましたが、障がいを持っている方が暮らしやすいまちにしていきたいというのを入れたいということです。

「可能なら盛り込みたいキーワード」

- ① あいさつ（あいさつ+1 運動）
- ② 奈良県の西の玄関口
- ③ わくわく感のあるまち
- ④ みんなが活躍できるまち
- ⑤ 創意工夫

あいさつが人をつなぐ手段になっていくのではないかということで、盛り込めないかという意見ができました。

また、前文の前文、のようになってしまうかもしれませんが、奈良県の西の玄関口、交通の要衝であるということを盛り込めたらという意見もありました。

さきほどの「まちづくりの原則」でも楽しくないとやりたくないと言いましたが、王寺町に若い人が集まってもらうためにも、わくわく感のあるまちというのを連想させるような前文にしたいというのが3つ目です。

4つ目としては、みんなが活躍できるまちということで、障がいを持っている人も活躍できるまちにしたいということでした。

もう一つは、今までの人が中心になって進めるだけではなくて、新しい技術を取り入れる創意工夫の面も含めて、前向きに取り組んでいくようなまちにしたいということを入れられたらという意見でした。

〈2班〉

「必ず入れたいキーワード」

- ① やわらぎの精神
- ② 西和の中核都市
- ③ 歴史あるまち（達磨寺）
- ④ 自然（明神山）
- ⑤ 子どもからの視点で見たまちの姿

やわらぎの精神は、これまでの話からすると、必須だろうということで意見が一致しました。

奈良県の西の玄関口、そして西和の中核都市というところでは、他のところから王寺に来てもらい巻き込まなくてはいけないという思いです。

あとは、歴史・自然です。できれば達磨寺や明神山など具体的なワードを入れたいというところ
です。

そして子どもの視点です。これからまちが発展していくためには子どもが大事です。入れ方をどうするかといったときに、アイデアが出ませんでした。未来のまちのことを書くとか、王寺町では子どもがいきいきしていると思わせるようなものを入れたいという意見でした。

【会長】

「まちづくりの理念」から見ていくと、1班からは、町民の負担が増え続けられない、多様性・個の尊重、行政の枠組みを離れた連携、環境あるいはまちの持続可能性、実現性、歴史・文化、支え合い・コミュニティというものがあがってきました。

2班からは、やわらぎの精神をもって多様性を尊重する、コミュニティを生み出すという理念をあげていただきました。

まちづくりをどういう理想の姿で考えていくのかについて、多様性や個の尊重、やわらぎの精神、支え合いなどを考えていただき、まちがどういう姿になるのかというときに、持続可能でそれを実現していけるようなまちの姿が理想なのだと思います。もちろん、歴史や文化などの地域の基盤についても、まちの将来の姿としてそれを大切にして花開くまちが望ましいということもあげていただいています。

こうした理想の姿を実現するための原則として、1班からは、楽しく、わくわくする仕組み、内輪ではなくオープンな形、他の市や町の条例を参考にした情報共有や住民参画、協働があがりました。

2班からは、まちづくりをしていくときに、小さい子にも分かりやすくということで、人の意見に耳を傾け、思いに寄り添ったらどうだろうか、そして自分が言ったことについて責任を持ち、それに応援できる人は応援をして、共感する人は支え、まちづくりについてはみんなが巻き込み巻き込まれることを考えてはどうだろうかということも挙げていただきました。

楽しくわくわく、そしてお互いに情報を共有して、話を聞き自分も話をして、そのことをみんなで協力して実現していく。連携は巻き込み巻き込まれということにつながるかもしれません。

前文ですが、必ず入れてほしいということで、1班からは、①一体感、②歴史・文化、③豊かな自

然、④やわらぎ、⑤多様性をあげていただきました。

2班からは、①やわらぎ、②西和の中核都市、③歴史、④自然、⑤子どもの視点、ということをお願いしました。

出来れば入れてほしいというところでは、1班から、①あいさつ、②奈良県の西の玄関口、③わくわく感がある、④みんなが活躍できる、⑤創意工夫があがってきました。

両方のグループで少し表現の仕方は違いますが、基本的なところは割と重なっていると感じます。両方のグループの意見を合わせたときにぶつかるものはないと思います。

それぞれのグループを聞いて、ここは違うということや強調したいこと、発表では出てこなかったけれど言いたいことなどがあればお願いします。

【委員】

前文のところ、子どものことを考えたときに、子育てがしやすい、子どもが地域で見守られるといった大人目線での意見しか出ませんでした。最後に壬生副会長にアドバイスをいただいてすぐよくよかったので強調しておきたいです。

他の自治体の事例を見て、どれもよかったのですが、王寺町で魅力ある言葉を盛り込みたいと思ったときに、先ほどの「まちづくりの原則」で出たような、自分の意見をしっかり言う、発言に責任を持つというようなことは全部大人になってできることではなく、子どものうちから自然とまちづくりの中に盛り込んでできるようにしていくと、大人になっても1班から出た持続可能な仕組みづくりになると感じました。

【会長】

子どもたちの視点からも前文を書いてはどうかという意見でした。文章にするのは難しいのですが、例えば、子どもたちが学び育ち、よいまちを作っていくことができるまちをみんなで目指しています、というような表現があるかもしれませんし、子どもたちがまちづくりに積極的に関わっていくまちという理想の姿を書くことができるかもしれません。

ここは今後の前文づくりのときに工夫したいと思いますが、1班でもこうした子どもの視点を入れても矛盾しないので大丈夫だと思います。1班の方でも、前文の中に入れてほしい言葉として「みんなが活躍できる」というのが意見としてありましたので、当然大人も子どもも活躍しなければよいまちはできないということになるかと思います。

【委員】

前文の中に入れてほしい言葉として考えていたのが、「つながる」という言葉でした。総合計画にも「みんなでつくる心つながるまち」というような言葉があります。

西和の中核都市というのもそうですし、みんなが活躍できるというのもそうです。町民同士のつながりも必要ですし、まちづくりを行うときに、王寺町単独ではなく、近隣の市町村や県、国ともつながらなくてははいけませんので、「つながる」という言葉を入れていただきたいと思います。

【会長】

実は「まちづくりの原則」のところでは、「連携」や「巻き込み巻き込まれ」という言い方で、「まちづくりの理念」のところでは、「コミュニティ」という言葉が出てきていて、「つながる」とも関連する言葉でした。

前文のところでは、一体感をつくるだとか、みんなが活躍して大人も子どももそれぞれの視点でよいまちをつくる、それぞれが協力するということに「つながる」ということが大変重要な役割を果たし、それが王寺の特徴になるということもあるかもしれません。

ここは文章化するときに工夫したいと思います。

【委員】

2班の「子どもの視点」が良いなと思いました。1班で「わくわくする」という言葉を出したのですが、「子どもがわくわくするまち」という視点はどうかと思いました。

子どもがこのまま学校を出て、王寺で働くということを考えたときに、ここでもっと頑張りたいとなるような魅力として、子ども視点でのわくわく感を強調すると面白いと感じました。

【会長】

1班からは「まちづくりの原則」、「前文」でも「わくわく感」という言葉をいただきました。前文を作るときに工夫したいと思います。

5. その他

特になし。

以上